

東京 IPO 特別コラム

2019年12月27日 Vol.155

有終の美を飾る株式市場

今年も残り僅か。振り返ってみれば昨年12月のブラッククリスマスをボトムに米国株の堅調さを背景に意外なほど強い展開を見せて終わりそうな株式市場ですが、来る2020年は果たしてどうなるでしょうか。高値更新中のNYダウはトランプ大統領の目指すアメリカ第一主義、減税政策を背景に青天井の動きを鮮明にしており、この先の高値は3万ドル台乗せが視野に入って参りました。掉尾の一振を期待する声の下、2019年のIPO市場も2月22日の識学(7049・M)から12月26日のスポーツフィールド(7080・M)まで年間86銘柄が登場し投資家のホットマネーが流入したことで比較的活況だったという印象がもたれます。

株式相場は楽観的な見方と悲観的な見方が絶えず戦いながら株価形成がなされ、上にも下にも行き過ぎは修正されながら、落ち着きどころを探る展開が続きます。主力銘柄では今年はソフトバンクグループ(9984)の動向が話題を集めました。新興市場では年前半において創薬ベンチャーのサンバイオ(4592)の株価急落が関心を集めました。売られた株は戻りを見せ、買われた株は調整に入るといった株価変動を横目に多くの投資家のホットマネーはAIや5G、IoTといったテーマ株に向かい、需給の良いIPO銘柄にも上場初値から大きく上昇する銘柄が出る一方、上場後に大きく調整局面を迎える銘柄など悲喜こもごもの展開となりました。

AIをテーマにした銘柄では今月25日にマザーズに上場したAlinside(4488)が上場初日に寄り付かず、2日目に公開価格(3600円)の3.5倍、12600円で初値をつけるなど押し並べて人気を集めました。同日にマザーズ上場のWDBココ(7079)も初日は値が付かず、2日目に3400円で初値をつけたほか今年のIPOの有終の美を飾った26日のスポーツフィールドも初値は2日目の本日となり、公開価格2730円の3.1倍、8500円となりました。同社はスポーツ人財の採用支援サービスを手掛ける企業。2020年がオリンピックイヤーであることを考えると人気化も頷けます。また、12月は11日にクラウドファンディングプラットフォーム「Makuake」の運営等を行う、マクアケ(4479)がマザーズに上場。有名歌舞伎役者やスポーツ選手が株主という報道も手伝いIPO後も人気を集めました。また、中小企業向けクラウドERPサービスの提供を行うフリー(4478・M)が17日に上場。公開価格2000円に対して初値2500円と穏健だったものの時価総額は1000億円を超え、ユニコーン型企业として注目されました。

こうして2019年も30日の大納会で有終の美を飾ることになります。全体相場の上昇がどこまで続くのかは今後の国内外の経済情勢にもよるでしょうが、変わらないのは好需給のIPO市場へのお金の流入。2019年以上に2020年もホットな動きを期待し、本コラムも掉尾を飾りたいと思います。皆様、良いお年をお迎え下さい。また来年も宜しくお願い申し上げます。(東京IPOコラムニスト 松尾範久)